

・運行頻度

給水車の1日の往復回数は3~4回前後である。  
給水施設（ジラファ）の不足、交通集中による渋滞等がその原因と考えられる。

③地下タンク所有者

・所有者

地下タンク（貯水槽）は再定住化地域内で個人が所有するもの、コミュニティー或いは教会等が所有し管理するもの、また近隣の農園で所有するもの等がある。

・購入価格、販売価格

個人所有の場合、タンクの水が無くなり、所有者が購入費を払える状態にあるとき、給水車を呼んで水を買うというケースが多い。給水車からの購入価格にはばらつきがあるが、一般的に河川水・農業用水の方が安い。

販売価格は、教会が所有するタンクで安く設定されているところもあるが、平均すると20リットルの容器1杯3~4kz.程度と、購入価格の2倍弱程度で販売している。

聴き取り調査では、営利目的というよりも自らが使うための水を定住地住民の要望に応じて分けている（販売している）、という所有者が多くみられた。

④再定住化地域住民

再定住化地域では、実際に水汲みに従事する主婦を中心にアンケート調査を行った。

図-2.4.16 購入・販売価格（取水源別、1m3あたり）

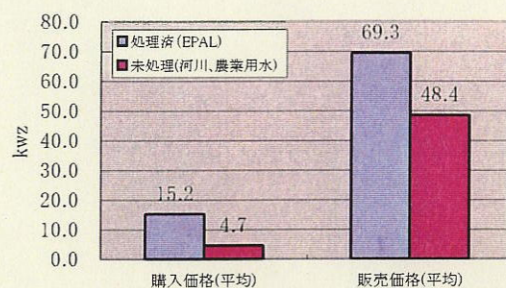


図-2.4.17 水源からの距離と水価格(国内避難民居住区)

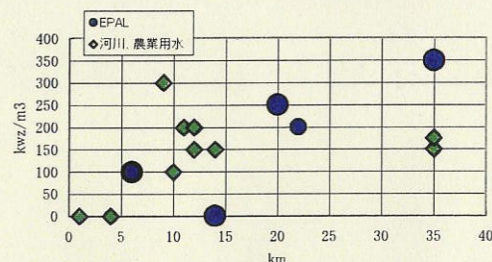


図-2.4.18 タンク所有者水購入価格(1m3あたり)

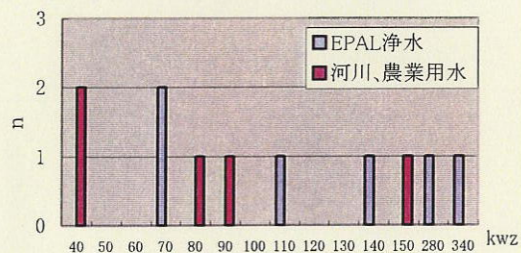


図-2.4.19 タンク所有者水販売価格(20Lあたり)

